

# ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

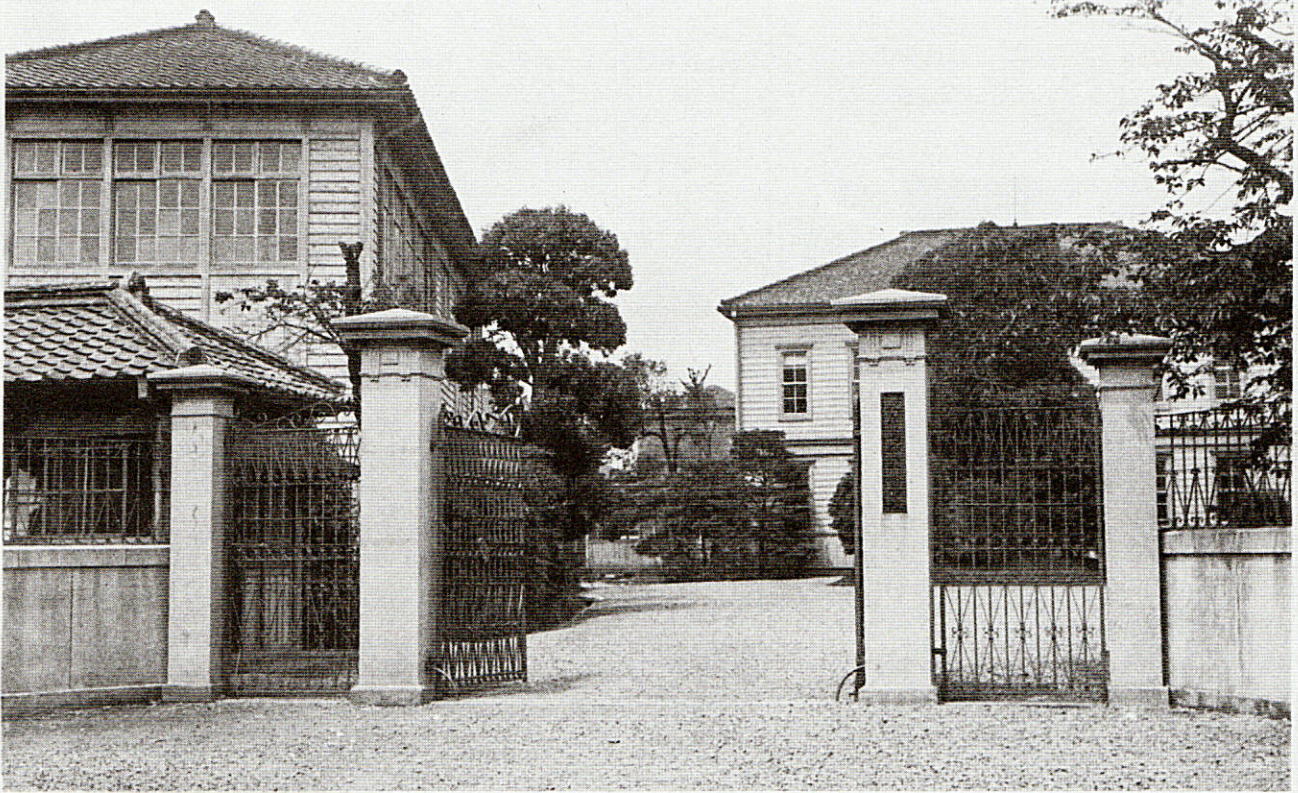
2010.3.27

24

春 期 企 画 展

## も くわ は 萌えたて 桑の葉

—東京高等蚕糸学校と西ヶ原—



行發館眞寫マヤカスア (門 正) 校學糸蠶等高京東

絵葉書(当館蔵)

会 期

平成22年3月27日(土)~5月5日(祝・水)

開館時間

午前10時~午後5時

会 場

特別展示室・ホワイエ

休館日

毎週月曜日(ただし5/3は開館)

後 援

東京農工大学 東京農工大学教育研究振興財団

観覧無料



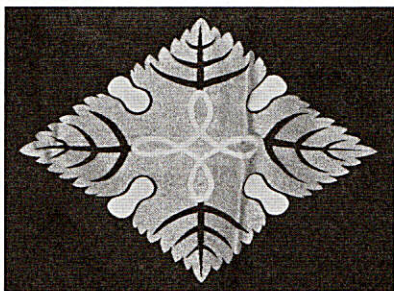
# も くわ は 萌えたて 桑の葉

—東京高等蚕糸学校と西ヶ原—

北区西ヶ原には大正・昭和を通じて我が国の蚕業教育に貢献した官立の東京高等蚕糸学校が置かれていました。昭和15年(1940)に小金井に学校が移転するまで日本の基幹産業である蚕糸業の教育研究機関としてこの地から多くの人材を世に送り出しました。かつて西ヶ原といえは全国的に東京高等蚕糸学校の代名詞であったほどでした。

本年は同校が西ヶ原から小金井に移ってから70年目を迎えます。そこで、東京高等蚕糸学校とはそもそもどういう学校であったのか。その歴史と特色はいかなるものであったのか。西ヶ原にゆかりのある資料を特別に里帰りさせていただき企画展を開催します。

「櫻咲く山ほど近く」と同校校歌にも歌われた春爛漫の飛鳥山にどうぞお越しいただきごゆるりとご観覧ください。



校旗に編まれた校章(東京農工大学 蔵)

## <関連事業>

### 1. 映画会&トーク

「映像で80年前と現在の蚕業をふりかえる」

日時: 4月25日(日) 午後1時30分から4時

会場: 当館講堂

作品: ①昭和6年日本中央蚕糸会製作「蚕糸業現況」  
(モノクロサイレント30分)

②平成16年シネマプロ製作「蚕その不思議その恵～家の蚕と山の蚕」  
(60分)

定員: 80名

講師: 担当学芸員 ※東京高等蚕糸学校関係者及び映画製作者のゲストを予定しています。

参加費: 無料

申込: 往復葉書で当館まで 4月15日(木) 必着 ※申込多数の場合は抽選。

### 2. 企画展ミュージアム・トーク

日時: 4月11日(日) 午後1時30分から2時30分

5月2日(日) 午後1時30分から2時30分

講師: 担当学芸員

定員: 30名

申込: 当日先着順 ※詳細はお問い合わせください。

### <申し込み・問い合わせ>

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3

北区飛鳥山博物館 Tel. 03-3916-1133 Fax. 03-3916-5900

月曜休館

URL: <http://www.city.kita.tokyo.jp/misc/history/museum/index.htm>

## ほ い す VOICE

### 「延命地蔵」、またの名を「ぽっくり地蔵」—

1月のある土曜日の朝、この地蔵を求め、自転車にまたがり飛鳥山を飛び出しました。本郷通りを通過、明治通りを通過、豊島へ。

きっかけはお客様からのご質問の電話。

「専称院の地蔵が見当たらなかった。今どこにあるのか?」

専称院というのはかつて豊島6丁目に存在したお寺で、昭和初期の道路拡張工事によって板橋区に移り現在に至っています。そして専称院の地蔵というのが冒頭のお地蔵のことで、お参りすれば長生きできる、長病みせずにはぽっくり逝けるとされています。水難供養の地蔵であるため、お寺が移った後も豊島に残されたようなのですが…。

はてと頭をひねりました。平成8年に出された『北区史民俗編2 豊島』で、この地蔵の所在は6丁目2-10付近と明記されているからです。

さて目的地に着くとなんと本当にお地蔵がいません。

偶然いらっしまった豊島の方に、ここにあったお地蔵はどこにいったかを尋ねましたら、向こう、とのこと。

首を後ろにひねると、いました! 道路拡張工事では対岸の5丁目に移っていたのです。やっと会えました、写真をパチリ。

さらに周囲に聞き込みをし、お地蔵にお花を供えている方の情報を得て、現在の地蔵守の方のことや、5丁目に移動しての開眼供養に専称院の住職さんが来たことなどを快く教えていただきました。

自転車で区内を駆ける私を見かけたら、応援よろしくお願いします。

(平)



現在の延命地蔵

# 「石に込められた意思」

大地  
水  
人

大塚 由利子(当館調査員)

現代人は日ごろどれくらいの範囲で活動をしているものなのだろうか?健康ブームの折、早朝また夕方の公園ではウォーキングに励む人の姿をよく見かけるが、内閣府が昨年度まとめた「平成20年度版食育白書」によると、日本人の一日の歩行数は全国平均で成人男性が7525.5歩、成人女性が6662.6歩になるという。個人差があると思うが、その移動距離は5km程度ということになるだろうか。王子駅を基点にして考えると、その歩行範囲円には北は川口駅(埼玉県川口市)、南は飯田橋駅(文京区)、東は南千住駅(荒川区)、そして西はときわ台駅(板橋区)あたりまでがすっぽりと入る形となる。実際には電車や自動車などを使うことも可能なので、本来的な行動範囲はこれよりはるかに広がるわけだが、現代のように交通機関が発達していなかった古代の人も河川や海の水流を巧みに利用して、日常的な徒歩圏を超えた遠隔地と交流していたことがわかっている。

北区赤羽台3・4号墳(古墳時代後期)は明らかに徒歩圏内では得られない房州石という石材をあえて使用し、石室が造られている。この石材は、北区からは実に100kmも離れた房総半島南西部の鋸山周辺の海岸部で採取されるもので、表面に二枚貝の生痕である穴が無数に開いており、非常に脆いという特徴を持つ。また石室の床面には、小礫や貝殻

(3号墳のみ)が敷かれていたこともわかっている。

石室内を海に關係する材料で造りあげるこの意味はどこにあったのだろうか。古代人の精神世界のひとつ「海上他界観」の側面から私見を交え、ご紹介したい。

海上他界観とは現代でいうところの「あの世」とか「死後の世界」というものを海の彼方に求める考え方である。房州石の産地に近い、千葉県館山市大寺山洞穴の1号洞穴からは実用の丸木舟を棺に転用した12基以上の舟形木棺が重なるような状態で、またそれぞれの棺の舳先や遺体の埋葬方向を洞穴の開口方向、すなわち海に向けた形で見つかっている。これはあたかも死者を舟に乗せ、次の世界へとつながる海へと送り出そうとしているかのようではないかとして、特に海上他界観との関係性が取り沙汰されている。お墓は多くの事象の中でも、それにかかわる人々の精神性・社会性が反映されやすいものであるとされる。赤羽台古墳群を造った古代人も、遠隔地にある海由来の石材を使用してまでも壁面を構成し、また床面には小礫や貝殻を敷き、墓室空間に渚や洋上を再現することで、次の世界へと旅立っていく死者の魂の安寧を願ったのかもしれない。最近では、とかく利便性・効率性を重視し、多くのことが簡略化されがちであるが、古代人のアクティブさを現代人も見習わなければならないと感じる。



赤羽台4号墳石室石材

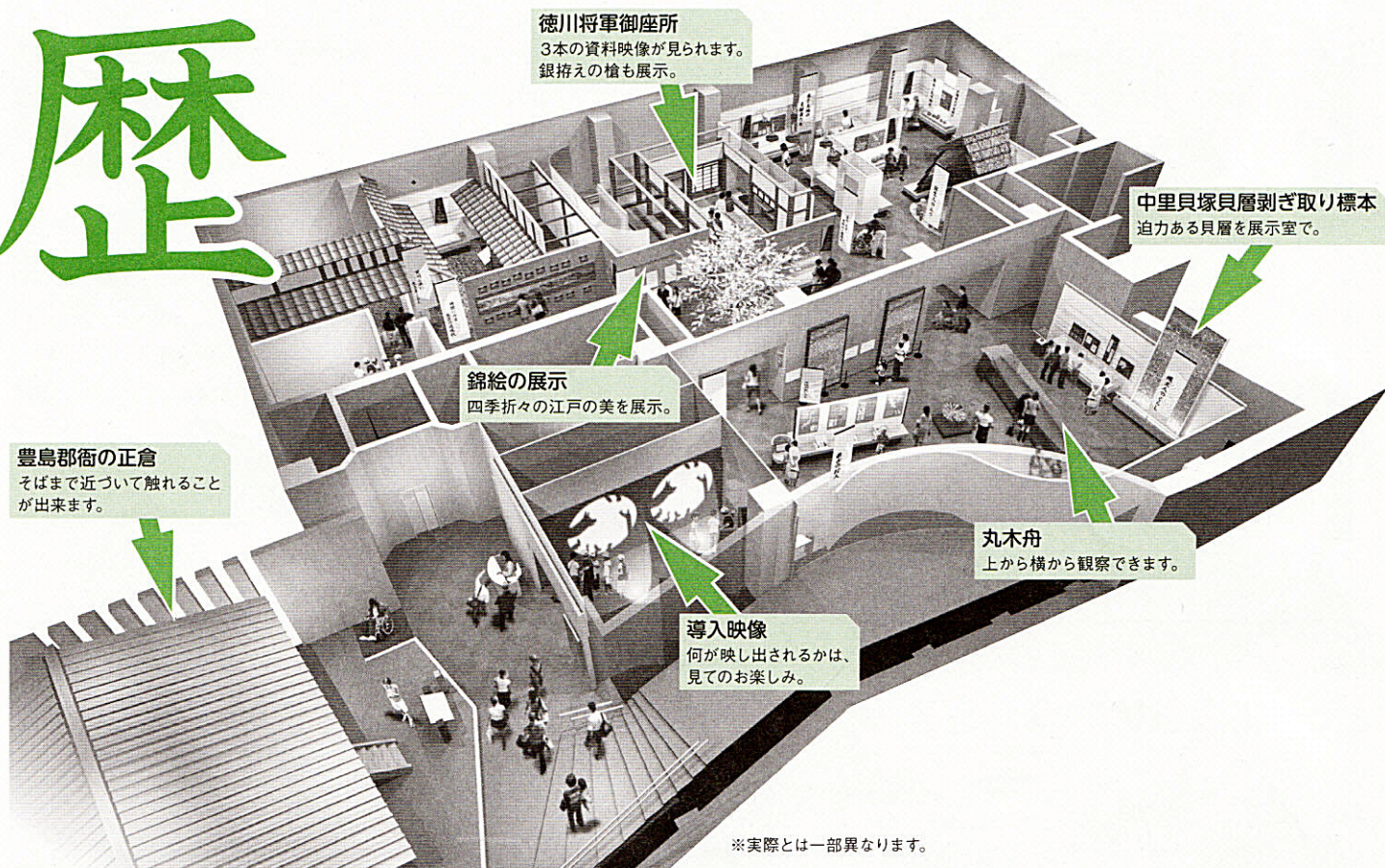
# 北区飛鳥山博物館

# リニューアルオープン

北区飛鳥山博物館が**3月27日**に新装オープン！

博物館が飛鳥山に誕生して12年目を迎えた今年、新しい見どころを加えて博物館がリニューアルされました。常設展示室では“よりわかりやすく、より楽しく”をコンセプトに、さまざまなしかけをご用意。また、3階には新たに北区ゆかりの絵画と伝統工芸品を鑑賞できるギャラリーを開設。その他にも使いやすくなった赤ちゃん休けい室やミュージアムショップなど、今までとは一味違った装いとなりました。歴史に美術・伝統工芸に、新しくなった博物館にぜひお越しください。

# 歴史



## 1階 常設展示室

これまで入り口の奥のホワイエに、1人さびしく展示されていた“中里貝塚貝層剥ぎ取り標本”が展示室に仲間入り。丸木舟もぐると回って上から横から見る事ができます。また、春日の局が王子神社に寄進したといわれる銀拵えの槍も新たに登場。江戸の頃の王子飛鳥山を描いた錦絵は年に数度展示替えを行います。これだけではありません。各コーナーの情報パソコンや音声ガイドを利用すると、よりわかりやすく観覧することができます。



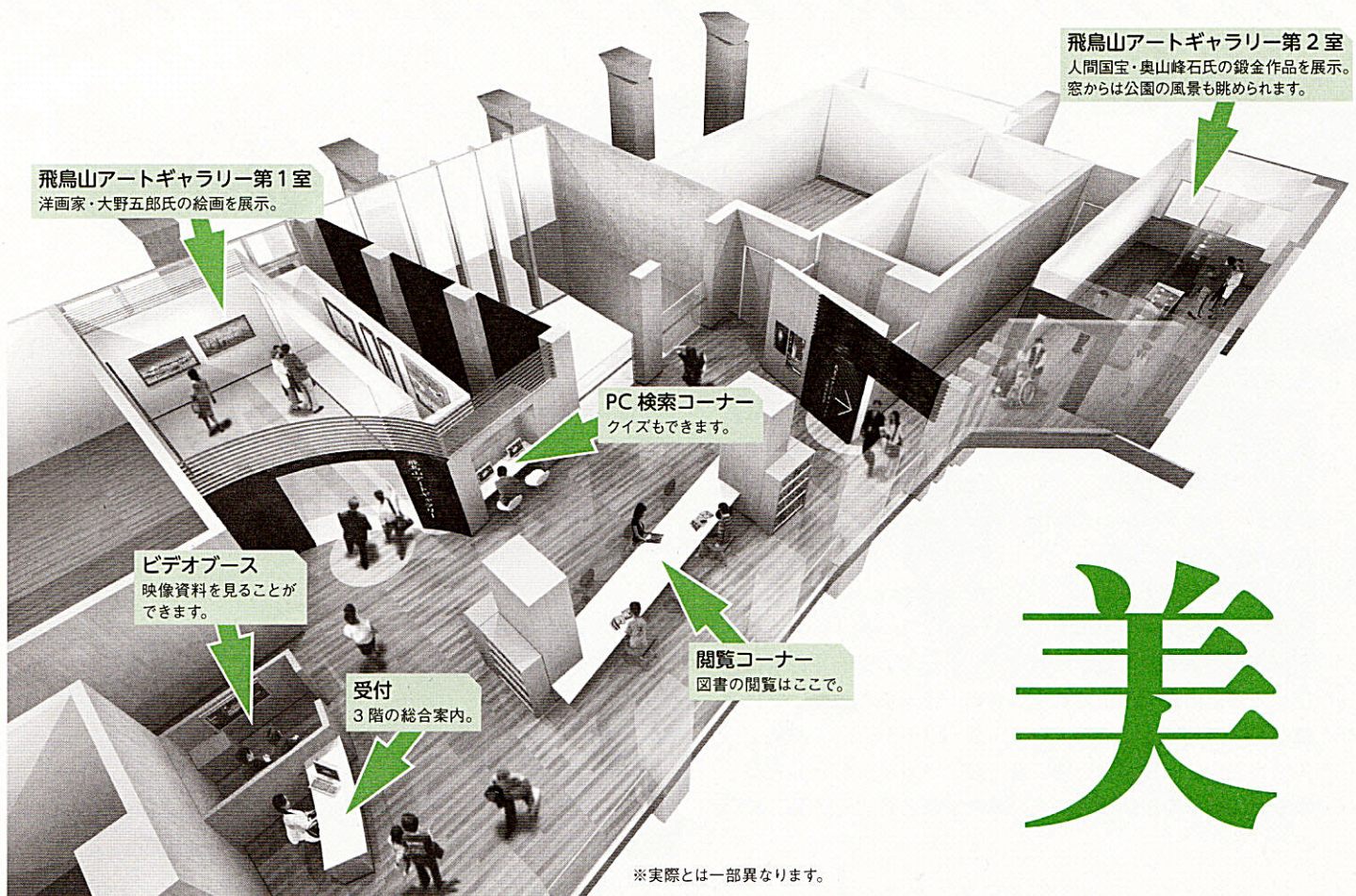
## 2階 ミュージアムショップと赤ちゃん休けい室

入り口正面の受付まわりにあったミュージアムショップが新たな装いとなり、グッズ選びがしやすくなりました。これからもミュージアムグッズの充実に力を入れていきたいと思っています。赤ちゃん休けい室はこれまで3階にありましたが、入り口のある2階に移したので、よりいっそう利用しやすくなりました。



## 3階 飛鳥山アートギャラリー

北区ゆかりの絵画や伝統工芸品を展示する“飛鳥山アートギャラリー”が新設オープン。第1室には赤羽モンパルナスで活躍された洋画家・大野五郎氏の作品を展示します。また、第2室には人間国宝・奥山峰石氏の鍛金作品を展示します。この第2室は公園の眺望も楽しめますので、春の桜の時期にぜひご覧になってください。



# 美

## イベントレポート

### からだをなおす◆くすりでなおす

—王子の万能妙薬と江戸・明治くすり事情—

【会期】平成21年10月24日～12月6日

江戸時代、王子の旧金輪寺の万能妙薬として知られていた「王子五香湯（散）」は、長い間文献でのみ確認される幻の妙薬であった。しかし平成15年（2003）、思いがけず実物の寄贈を受けることができ、これを契機として改めて王子五香湯の調査を進めることとなった。調査の過程では北区在住の荻原通弘氏と元東京理科大学薬学部教授・遠藤次郎氏の全面的なご協力を得て、この薬の実際の配合や効能が明らかとなった。

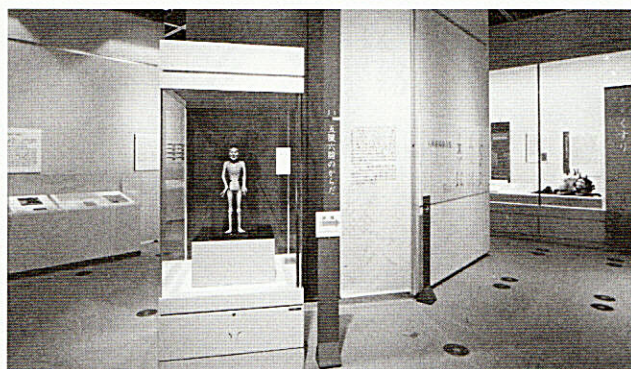
展示構成では、まず身近なようであり知られていない伝統薬に対して興味と理解を深めていただけるように心がけた。そこで江戸時代の身体観を導入として、当時の医薬環境、売薬の発展について紹介した。次に王子五香湯（散）の由緒・効能を解説し、そのなかでは王子五香湯（散）を再現して香りの体験展示も試みた。続いて当時の養生観、そして明治以降の新しい薬へと展開させた。

また、関連イベントとして荻原氏と担当学芸員による

# Event Report

展示解説、遠藤氏による講演会「漢方医学と仏教医学の身体観」、医薬ゆかりの地をめぐる見学型講座を実施し、どれも定員を超える盛況となった。

当初は、医薬は「難しい」と思われやすいテーマだけに来館者の反応が多少心配であった。しかし、関東では医薬関係の企画展が珍しく、おりしも江戸時代の医療を題材としたTVドラマの放映と開催時期が重なったことも幸いして7,000名を超える入場者となり、医薬に対する潜在的な関心の高さを強く感じる結果となった。（久）



企画展会場の一部

写真に見る

## あの日あの時

殺風景な土手を背景に、あまり楽しげとは言えない表情の集合写真である。それもそのはず、原所蔵者によれば、写っているのは昭和18・19年（1943・44）頃、食料増産のため畑作りに励んでいる王子本町1丁目地域の方々である。

戦時下、食料不足は深刻さを増し、昭和18年6月には食料増産応急対策要綱が決定され、空地や校庭などが菜園・農園として利用されていった。この写真の撮影場所は旧荒川河川敷というが、土手の向こうに立ち並ぶ煙突が見えるものの詳しい地点は不明である。

写真を見る限り、ここでの作業の主体は女性たちである。みな白い割烹着に姉さんかぶり、「大日本国防婦人会」と記した褌がけである。大日本国防婦人会は昭和7年（1932）に発足した婦人団体で、出征兵士の送迎や遺家族の慰問、防火訓練などの活動をおこなっていた。同17年（1942）、組織上は愛国婦人会、大日本連合婦人会と統合されて大日本婦人会となるが、多くの地域が旧会の名称のまま終戦まで活動していたという。

## 強く・りりしく・たくましく

—戦時中の食料増産作業風景—

女性たちの足元に目をこらすと、たくさんの雑草が混じる土が深く掘り起こされている。当時の王子に住む女性たちが畑仕事に慣れていたはずも無く、河川敷の重い土を耕作するのは苛酷な作業であったに違いない。それでも、夫に代わって家族を守るという気概からだろうか、女性たちの割烹着姿はりりしく、たくましい。（久）



## 花見弁当の押し鮓

常設展示室の桜の木の下には花見弁当の複製が展示されています。今回はここに盛られた鮓についてお話ししましょう。この料理は『料理早指南』（享和元年（1801）刊行）に掲載された花見弁当の献立から再現したものです。しかし鮓といっても握り鮓ではなく鯛の押し鮓です。それというのも18世紀末から19世紀初期の寛政・享和の時代には、まだ握り鮓はなく当時、粋な江戸っ子たちの舌を唸らせた鮓といえば、実は押し鮓でした。

再現に当たって典拠とした『料理早指南』にはこの押し鮓（一夜鮓）の作り方が次のように載っています。まず塩をした白身魚の塩分を少し抜き水気を良く拭き取り、身をおろし骨をすきとります。これを酢に浸け置き、加減を見て取り出します。ご飯には焼塩をほどよく合わせこれを鮓箱に平らに敷き、先の白身魚を乗せて鮓箱に蓋をして強く押し付け、一晩おくと一夜鮓のできあがりです。つけあわせは「たで」と「新せうが」が記されています。なんとシンプルなもの「一夜」で食べられる「押し鮓＝早鮓」は、従来の馴れ

鮓のように米を発酵させた独特の味わいと保存性を向上させた食と比べて素材の魚の味を生かした優れモノでした。

飛鳥山を描く錦絵にもこの押し鮓売りが描かれているものがあります。今回のリニューアルで錦絵コーナーは年数回の展示替えをしますので、イナセな押し鮓売りを今度、探してみてください。（石）



花見弁当「押し鮓」

## 博物館インフォメーション

### おすすめします! この御本

最近発行された「博物館」を書名に冠する書物の中から今回は、2点をご紹介します。

1冊目は、その名も『新博物館学』（小林克氏著 同成社 2009年10月刊行）です。学芸員としての経験を踏まえて、今日の博物館を取り巻く課題を現場の目線から探り、時代のニーズに合った博物館経営の有り方を示しています。また博物館の基礎的な業務とその実践について鋭い指摘を行い、現代社会における博物館の意義を考える上で貴重な一冊といえましょう。

もう1点は『幻想博物館 新装版』。長らく絶版でしたが昨年12月に講談社から文庫本として再刊されました。著者は大正時代の田端に生まれた孤高の作家・中井英夫氏、解説はこちらも戦前の中里で育った澁澤龍彦氏という地域ゆかりの豪華な顔ぶれです。「博物館」という即物的で静謐な印象を持つ言葉の上に、ひとたび「幻想」という相貌が刻されるとき、一転して日常の世界を離脱した「幻視者」たちが視る反地上的な妖美の世界が現出して、読者を耽美と残酷、現実性の揺らぎへと誘います。

まことに「博物館」という言葉には、実と虚という世界と反世界が向き合う感を新たにこの2冊ですが、それにしても戦前の田端・中里地域が紡ぎだす幻想の精神史について、もっと渉猟したくなるのは評者だけでしょうか。

（石）



### 北区の昔を伝えるモノ 資料や写真を探しています!

当館では、地域で使われていた生活用具や古い写真など、昔の暮らしがわかる資料を探しています。お心当たりのある方は、ぜひ当館（電話03-3916-1133）までご一報ください。

春 [ 4月~6月 ]

- 4月 ■春期企画展「<sup>も</sup>萌えたて、<sup>くわ</sup>桑の葉」  
—東京高等蚕糸学校と西ヶ原—  
(3/27~5/5)  
■錦絵ギャラリー・レクチャー・シーズン1  
(4/10)  
■文字の世界の飛鳥山 (4/24)
- 5月 ■常設展示ミュージアム・トーク  
(5/8・15・22・29・6/5)  
■絵図に描かれた北区の村 パート1 (5/9)  
■新緑の日光御成道をたどり歴史を訪ねる  
(5/23)
- 6月 ■2010年映像企画 都電の住む町 (6/6)  
■近代の飛鳥山 (6/12)  
■上級考古学講座「古代人の他界観」  
(6/13・20)  
■錦絵ギャラリー・レクチャー・シーズン2  
(6/19)  
■描かれた中世・北区の縁起絵巻の世界  
(6/26)

夏 [ 7月~9月 ]

- 7月 ■『北区史近世編』を読む会  
(7/3・4・17・18)  
■大谷石の流れ・宇都宮から北区 (7/10)  
■イベント  
「夏休みわくわくミュージアム☆2010」  
・都電車庫見学会  
・荒川の生物・環境を調べよう  
・狐の紙人形づくり  
・夏休み☆はくぶつかん探検ツアー  
・チャレンジ! 昔の手仕事  
～ミニかごを編んでみよう  
・夏休み土器づくり教室  
・夏休み勾玉づくり教室  
・夏休み古代布づくり教室  
・夏休み古代土笛づくり教室  
・江戸のおもちゃ「ずぼんぼ」を作ろう!  
・江戸のおもちゃ「たてばんこ」を作ろう!  
・江戸の縁起物「絵馬」を作ろう!
- 8月 ■本日直前講座! 王子田楽を知る (8/8)  
■錦絵ギャラリー・レクチャー・シーズン3  
(8/28)
- 9月 ■特別展覧会「人間国宝奥山峰石と北区の  
工芸作家展」(9/11/ ~10/11)

お知らせ

●資料消毒にともなう臨時休館

収蔵資料を害虫やカビから守る殺虫・消毒処理にと  
もない、6月下旬から7月上旬の約5日間を臨時休館日  
とさせていただきます。詳細な日程は北区ニュース、  
北区公式HP等でお知らせいたします。なにとぞご理解  
のほどよろしくお願いたします。

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

飛鳥山公園も春を迎える準備を始めたようです。  
とくに桜の蕾が毎日少しずつ膨らんでいくのが目に  
見えてわかるようになってきました。この蕾の開き  
はもう間もなく。そうすると私がここ北区飛鳥山博  
物館に非常勤学芸員として勤めはじめて、もうすぐ1年が経つということに  
なります。

新米学芸員であり新米社会人の私。学ぶべきことが多く、駆け足で過ぎ  
て行った充実した1年だったのですが…。この原稿を書くに当たり、いざ  
振り返ってみると、やることなすこと、とにかくもう失敗の連続だったなあ、  
そんなことばかり思い出されます。周囲の皆さんにはご心配とご迷惑とお  
かけしたとおもいます。2年目は、もっと頼られる学芸員になれるように頑  
張っていかう、そんな決意をそととしています。

一番思い出すのは、ミュージアム・トークなどで皆さんの前で話すときに、  
晴れ舞台にも係わらず、緊張のあまりよく頭が真っ白になっていたことです。  
このようなことは当然、話す仕事をする上で望ましくないので来年はこの分野  
をもっと研鑽していかねばならないと考えています。

しかしそんな私に、1人のお客様が「おもしろかったですよ。」と、声を掛  
けてくださった。そとと掛けられた言葉がこんなにも嬉しかったことはなかつ  
たですね! まだ皆さんの前で話す機会は少ないですが、成長を見ていただ  
ければ嬉しいです。(平)

たよられる  
学芸員なる日は  
まだ遠い

利用のご案内

【開館時間】

午前10時から午後5時  
(※観覧券の発行は  
午後4時30分まで)

【休館日】

毎週月曜日  
(月曜日が国民の祝日・休日にあ  
る場合は開館し、直後の平日に  
振替休館)  
年末年始(12月28日~1月4日)  
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円



- ・JR 京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス 草64、  
王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・北区コミュニティバス  
飛鳥山停留所より徒歩3分

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、  
紙の博物館をご覧ください。

編集後記

この「ほいす」24号が発行される3月27日、当館はリニューアル工事を終え再  
開館いたします。3階から1階まで大きく変貌を遂げた様子につきましては、ぜ  
ひ本号4・5ページをご覧ください。ご来館のみみなさま方の激励・ご叱咤・ご批  
正のお声を大切に、当館スタッフ一同、今年も大いに奮闘致したく存じます。

(石)

北区飛鳥山博物館だより  
ほいす24

発行日 平成22年3月27日  
編集 北区飛鳥山博物館  
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3  
TEL. 03-3916-1133  
発行 東京都北区教育委員会  
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1  
TEL. 03-3908-1111 (代)  
印刷 羽陽美術印刷株式会社